

エコアクション21 環境活動レポート

(2013年10月21日～2014年10月20日)



| | |
|--|-------|
| 1. 組織の概要及び対象範囲 | P.2 |
| 2. 環境方針 | P.3 |
| 3. (基準年の環境負荷と)環境目標 | P.4 |
| 4. 環境活動計画、環境目標の実績及び環境活動計画の 取組結果とその評価並びに次年度の取組内容 | P.5～6 |
| 5. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無 | P.6 |
| 6. 代表者による全体評価と見直しの結果 | P.6～8 |

2014年12月12発行

尾下紙業株式会社

1. 組織の概要及び対象範囲

- ・事業所名 尾下紙業株式会社

(登記上の所在地…東京都品川区二葉3丁目16番8号)

- ・代表者氏名 尾 下 浩 一

- ・環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 尾 下 浩 一

担 当 者 安 藤 雅 人

連絡先 〒250-0002 神奈川県小田原市寿町 3-1-22

Tel 0465-34-3250 Fax 0465-35-4265

E-mail m.ando@oshita-shigyo.co.jp

- ・サイト名称及び所在地

①小田原工場……………認証・登録対象組織

・所在地 〒250-0002 神奈川県小田原市寿町 3-1-22

・事業活動の内容 カネボウ化粧品の製品を梱包する段ボール函の製造、納品。

②花王小田原事業所……………認証・登録対象外組織

・所在地 〒250-0002 神奈川県小田原市寿町 5-3-27

・花王小田原事業所において行う、倉庫管理業務。

花王小田原事業所は、花王コスメプロダクツ小田原株式会社の構内協力会社として同工場で推進しているISO14001の取り組みに包含され、一体化した環境管理活動を実施しています。

- ・事業の規模 2014年度(2013年11月～2014年10月)

売上額 3.3億円

従業員数 67名 (小田原工場 24名、花王小田原事業所 43名)

延床面積 1,120㎡ (小田原工場 1,120㎡)

環境理念

当社は社会の一員として次世代に住みよい地球を残すために環境に配慮した企業活動に取り組んでいます。

地球環境の保全と、持続可能な社会の構築を目指し、全ての企業活動において積極的にその達成に努めます。

環境方針

1. 電力、燃料、水の無駄な使用を押さえ、使用量を抑制します
2. 製函作業(貼り)での不良率の低減により、廃棄物発生量の抑制に努めます
3. 使用する化学物質の管理を強化し周辺環境への影響の低減に努めます
4. グリーン購入に努めます
5. 環境にやさしい段ボール函の販路拡大に努めます
6. 全従業員の環境に対する認識を高めるため、教育・訓練の実施に努めます
7. 環境保全に関する法令やその他の規制等を遵守します
8. 私たちが働く工場の側を流れる酒匂川や地域の清掃活動等に積極的に参加します

平成26年 12月 12日

尾下紙業株式会社

取締役社長 尾下 浩一

3. (基準年の環境負荷と)環境目標

| 環境目標 | 基準(実績) | 年度目標 | 中期目標 | |
|---------------------------------|---|---|---|---|
| | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 |
| 1. 二酸化炭素 排出量の削減 (生産量当たり) | 42,891 kg-CO ₂ | 42,462 kg-CO ₂ | 42,033 kg-CO ₂ | 41,604 kg-CO ₂ |
| | (生産量当たり) (82.3kg-CO ₂ /t) | 1%削減 (81.5kg-CO ₂ /t) | 2%削減 (80.7kg-CO ₂ /t) | 3%削減 (79.8kg-CO ₂ /t) |
| ① 電力使用量の削減 ⁽¹⁾ | (生産量当たり) 144.6kWh/t (60.4kg-CO ₂ /t) | 1%削減 143.2kWh/t (59.8kg-CO ₂ /t) | 2%削減 141.7kWh/t (59.2kg-CO ₂ /t) | 3%削減 140.1kWh/t (58.6kg-CO ₂ /t) |
| ②自動車燃料 使用量の削減 | (生産量当たり) 8.5L/t (21.2kg-CO ₂ /t) | 1%削減 8.4L/t (21.0kg-CO ₂ /t) | 2%削減 8.3L/t (20.8kg-CO ₂ /t) | 3%削減 8.2L/t (20.6kg-CO ₂ /t) |
| 2. 廃棄物 排出量の削減 | (段ボール) (生産量当たり) 0.399t/t | 1%削減 0.395t/t | 2%削減 0.391t/t | 3%削減 0.387t/t |
| 3. 水資源 投入量の削減 | (生産量当たり) 1.0m ³ /t | 1%削減 0.99m ³ /t | 2%削減 0.98m ³ /t | 3%削減 0.97m ³ /t |
| 4. 化学物質の 管理徹底 | 管理の徹底 | 状況維持 — | 状況維持 — | 状況維持 — |
| 5. グリーン購入 の拡大 ⁽²⁾ | 77.6% | 2%UP (79.2%) | 3%UP (79.9%) | 4%UP (80.7%) |
| 6. 環境配慮製品 (or サービス) の販路拡大 | 環境配慮製品 | 取引先 基準年+1社 | 取引先 基準年+2社 | 取引先 基準年+3社 |
| 7. 遵法対策の実施 | 制定、改正の確認 及び評価 | 制定、改正の確認 及び評価 | 制定、改正の確認 及び評価 | 制定、改正の確認 及び評価 |
| 8. 地域貢献の拡大 | 実績 19名 | 地域清掃の参加 酒匂川(20名) | 地域清掃の参加 酒匂川(21名) | 地域清掃の参加 酒匂川(22名) |
| 9. 教育、訓練の推進 | 全体教育の実施 緊急時対応訓練 | 全体教育の実施 緊急時対応訓練 | 全体教育の実施 緊急時対応訓練 | 全体教育の実施 緊急時対応訓練 |

注(1)購入電力のCO₂排出係数:0.418

注(2)グリーン商品購入数/全(用品)購入数 ×100(%)

4. 環境活動計画、環境目標の実績、取組結果とその評価及び次年度の取組内容

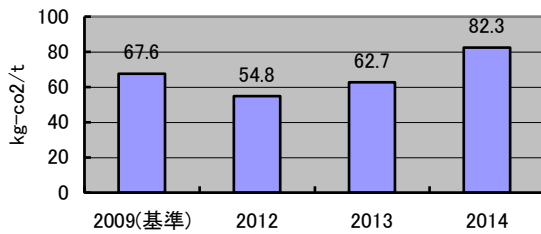
| 環境活動計画 | 取組結果とその評価(2013年11月～2014年10月) | | | |
|--|---|---|----------|---|
| | 環境目標 (2009年度比) | 実績 | 達成 区分 | 評価及び次年度の取組内容 |
| 1. CO ₂ 削減 (生産量当たり) | 5%削減 (64.2kg-co ₂ /t) | △28.2% (82.3kg-co ₂ /t) | × | ・電力、燃料とも大幅に増加しているが生産量減少に伴う要因が大きい。 |
| ①電力使用量削減 ・パソコンの電源管理 ・エアコンの温度管理 ・フィルターの清掃等 | 5%削減 106.6kWh/t (44.6kg-co ₂ /t) | △35.6% 144.6kWh/t (60.4kg-co ₂ /t) | × | ・稼働機器での電力使用の削減は今後もあまり期待できない。今後は工場内の照明機器をLEDに取り替えも検討。 |
| ②車燃料使用量削減 ・車両の点検整備の徹底 ・エコドライブの徹底 ・配車計画の効率化 | 5%削減 7.9L/t (19.6kg-co ₂ /t) | △7.6% 8.5L/t (21.2kg-co ₂ /t) | × | ・出荷量減少の影響は大きいが配車日の集約等での効率化アップは既に行っている。今後はトラックでの配送だけではなく、少量の際には小型の社用車の活用も検討する。 |
| 2. 廃棄物(産廃)排出量の削減 ・製品不良率の削減 (機台の点検整備実施) | 5%削減 0.260t/t | △53.5% 0.399t/t | × | ・昨年度より、在庫製品の圧縮を行い当月注文分だけの生産を行ったが仕入原料の増加による、材料での廃棄が多くなったと考えられる。次年度は生産計画の立て方自体を見直したい。 |
| 3. 水使用量削減 ・フレキシ洗浄の合理化 ・トイレの節水 ・配水管漏れチェックと対策の実施。 | 5%削減 1.14m ³ /t | ▲12.3% 1.00m ³ /t | ○ | ・使用量のトップはトイレなので、生産量が少ない時は思い切って現場を休日扱いにし、年休取得の推奨をする。 |
| 4. 化学物質の管理徹底 | 管理の徹底 | 管理の状況維持 出来ています | ○ | ・保管、管理を今後も徹底し、法規の変更等の有無を定期的にチェックを行う。 |
| 5. グリーン購入拡大 | 購入率 7%UP | △28.5% 77.6% | ○ | ・購入品の大半は事務用品なので品種を維持していく。 |
| 6. 環境配慮製品の販路拡大 | 取引先 +2社 | 取引先 +3社 | ○ | ・新規取引先は3社あったがまだ継続的な注文までは達していない。少量でも利益率の高い製品を販売する営業を行わせたい。 |
| 7. 遵法対策の実施 | 制定、改正 の確認 | 制定、改正の確 認及び評価 | ○ | ・法令等の変更による対策は必要なし。今後も法令等の変更の把握に努めたい。 |
| 8. 地域貢献の拡大 | 環境行事への参加と 清掃活動 | 酒匂川水系研修 会参加 清掃活 動への参加19名 | ○ | ・清掃活動への参加はこの数年定着している。今後は従業員の住んでいる地域での活動にも積極的に参加し貢献出来るようになってもらいたい。 |
| 9. 教育、訓練の推進 | 全体教育と 訓練 | 全体教育 緊急時対応訓練 | ○ | ・毎週の全体朝礼、安全委員会の実施時に教育を実施。外部主催の講習会やセミナーへの参加も増やしていく。 |



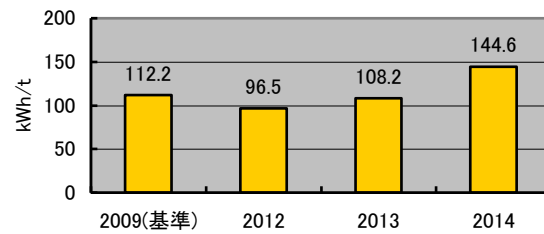
☆酒匂川河川敷の清掃活動(クリーンさかわ)への参加状況

○: 目標達成、×: 目標未達

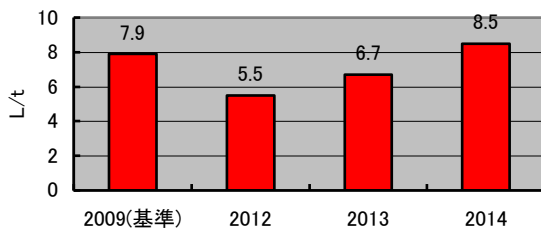
CO2排出量実績(kg-co2/t)



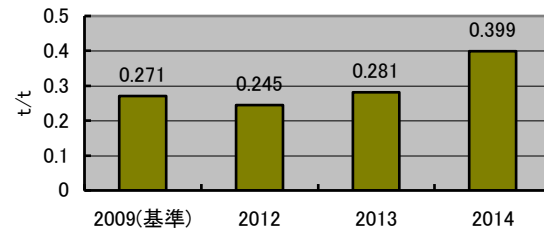
電力使用量実績(kWh/t)



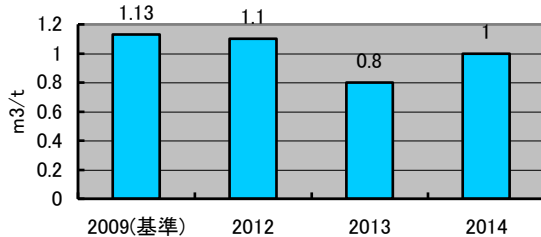
車燃料使用量実績(L/t)



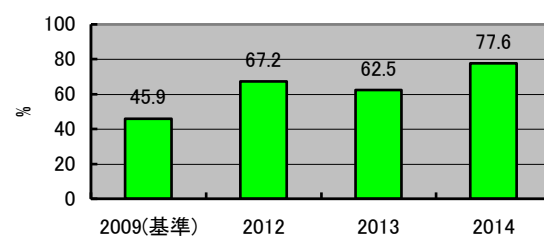
廃棄物排出量実績(t/t)



水使用量実績(m3/t)



グリーン購入実績(%)



5. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
適用される主な環境関連法規等は次のとおりである。

| 適用環境関連法規等 | 適用される事項(施設、物質、事業活動等) |
|--------------|------------------------------|
| 廃棄物処理法 | 一般廃棄物(事務・厚生系)、産業廃棄物(紙くず・廃油等) |
| 騒音・振動規制法 | 印刷機械(2台) |
| 消防法(危険物) | IPA(指定数量の1/5未満)・・・規制対象外 |
| 神奈川県生活環境保全条例 | 指定事業所・敷地境界線における騒音の規制 |

環境関連法規等の遵守状況を確認し評価した結果、環境関連法規等への違反・訴訟はありませんでした。なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

6. 代表者による全体評価と見直しの結果

(1) 見直しの実施日

2014年12月12日

(2) 見直し結果

| 項 目 | 変更の必要性 |
|----------|------------------------|
| 環境方針 | なし |
| 環境目標 | あり・・・新たに基準年度を設定し運用していく |
| 環境活動計画 | なし |
| 環境経営システム | なし |

(3) 評価及び指示内容等

1) 全体評価

今年度は、生産数量の大幅減に伴う作業計画の見直しが遅れた。
昨年度の在庫製品の圧縮により、製品劣化による廃棄は無くなったが
少量でも生産しなければならなくなり、注文数の割に稼働日数が増加した。
今後の環境目標の基準年を変更し、根本的な対策を講じる必要がある。

2) 個別の評価及び指示

① 二酸化炭素の排出量および電気・燃料使用量の削減

目標値より大幅に増加したのは、生産量減少による影響も大きいですが、
電力使用量が冬場(2月)に多いのは暖房設備の使用が考えられる。
昨年度は事務所で空調とガスファンヒーターを並行して使用していたが、
空調を省エネタイプの機器に変更した。又、今冬はガスファンヒーターの
使用を中止し、電力使用量を減らしていきたい。

② 廃棄物排出量の削減

取引先からの要請で、段ボールの材質を変更し㎡あたりの重量が重い
紙を使用するようになった。以前よりも仕入重量、廃棄重量とも増加した。
注文数の減少以上に廃棄率が増加した影響が大きい。

③ 水使用量の削減

水使用量の半分以上が工場稼働日でのトイレの廃水なので、使用量自体
を減らすのは困難である。生産計画の立て方を変更し、効率の良い稼働日
の設定を心掛け、生産量当たりの使用率を低下させてもらいたい。

④化学物質の管理強化

昨年度同様、溶剤以外の代替品の調査を継続中。
溶剤を使用しない材質でも同等の品質が確保できれば変更を検討する。
現状では、引き続き保管、管理の強化を図り、使用量の抑制と拡散の防止に努めてもらいたい。

⑤グリーン購入の拡大

事務用品を中心に今後も購入の品種を増やしてもらいたい。

⑥環境配慮製品の販路拡大

大量生産のみならず、少量でも利益率の高い1点物の製品の販売も増やしていきたい。新規取引先開拓の為に、展示会への出展や、異業種間の企業とも連携するよう努めてもらいたい。

⑦遵法対策の実施

法律、条例の変更無し。今後も該当法規を把握していく。

⑧地域貢献の拡大。

清掃活動への参加はこの数年定着している。
今後は従業員の住んでいる地域での清掃活動や防災訓練への参加もしてもらいたい。

⑨教育、訓練の推進

定期的な朝礼での環境教育を実施した。外部主催の講習会やセミナーへの参加も増やしていく。東京ビッグサイトでのエコプロダクツへの見学も、従業員を同行しての参加もしていきたい。

以 上